

音楽といえば教会の賛美歌と学校のブラスバンド、というトンガの若者たちに、音楽の豊かさと深さを伝え、情操教育を促進しているのが音楽隊員です。尾上さんの支援で実現したクラシックコンサートは、トンガの人たちに音楽の多様性を示し、大きな喜びと夢を与えました。尾上さんのもとで若手弦楽器奏者や指導者が育ち、トンガの音楽がさらなる進化を遂げるのが楽しみです。



企画調整員(ボランティア事業)*
羽野友和(はのともかず)

*隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査し要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を行う。

+one information

ココナッツの可能性

トンガと聞いてなにを想像するだろうか。実は、地元の人たちにとってトンガといえばココナッツなのだ。見渡すかぎりココヤシが生えていて、国土面積の大半をココヤシの木が占めているといっても過言ではない。

そんなに身近なココナッツ、いちばん活用されているのは料理で、その代表ともいえるのがオタイカだ。トンガ語でオタは生、イカは魚で、その名の通り生魚料理。下ろした魚を大きめのサイコロ状に切り、塩とレモン汁でしめ、そこにトマト、玉ねぎなどの生野菜をみじん切りにして加え、搾りたてのココナッツミルクで和えたもの。家庭ごとに味は異なり、ほどよく唐辛子を効かせてあるとよりおいしい。これが冷蔵庫でキンキンに冷やされていると、暑い夏場はなお食欲をそそる一品となる。

トンガ料理に欠かせないココナッツだが、時にはラグビーのボールに早変わりする。ラグビー大国であるトンガの子どもたちは、日本の子どもたちがキャッチボールをする感覚でラグビーのパスをしている。でもラグビーボールがどこにでもあるかというそうではない。そんなときに活躍するのが、そう、ココナッツ。そういわれると、形も重さもちょうどラグビーボールに見えてくる。ものがなくても、身近にあるものを最大限に生かして楽しむのがトンガ人。トンガのココナッツは、まだまだ可能性を秘めているそうだ。(尾上香織)

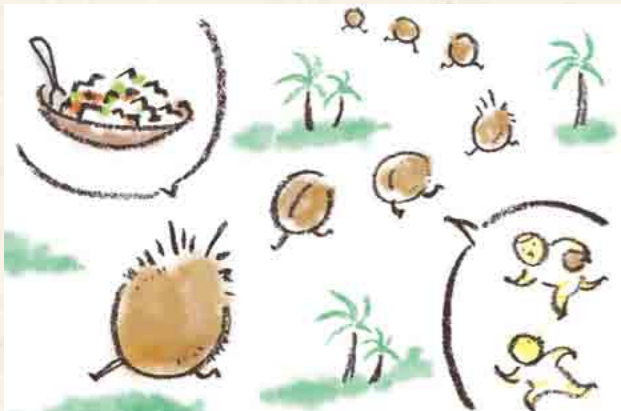


イラスト ● さかがわ成美



みんな、テンポを合わせてー



JICA海外協力隊
がゆく Vol. 6

今回の海外協力隊員は、南太平洋の島国トンガで、音楽を学ぶ学生たちを指導しています。

in トンガ
尾上香織

おのうえ・かおり 31歳
出身地: 熊本県
職種: 音楽
任期: 2017年7月~2019年7月

トンガの人たちに弦楽器をもっと身近に感じてもらいたい



TTIでのオーケストラの授業。プロを目指す若者たちが集い、日々研鑽を積む。



そうそう、その調子

尾上さんは週2回、市民向けのコミュニティクラスでも教えている。TTIの学生も指導にあたり経験を積んでいる。

トンガでは、同僚のトンガ人講師がすでに弦楽器の普及に取り組み、トンガ初のオーケストラを2015年7月に創立。教会音楽の伴奏にもっと弦楽器を取り入れたいと熱い思いで活動しています。学校側の音楽教育への熱意もあります。そうした周囲の方々の力を得て、今の私の活動もあると思っています。音楽を楽しむ術を知っているトンガの人たちの姿勢から学び、トンガの伝統的な音楽のよさを生かしつつ、これからの弦楽器やクラシック音楽のすばらしさを伝えていきます。



昨年行ったコンサートと一緒に演奏をする尾上さん(左)。



音楽が生活の一部になっているトンガ。国民の大多数がキリスト教徒で、いつも教会で賛美歌を合唱するからか誰でも歌が得意です。その伴奏で使われる金管楽器の演奏も、みんな達者です。ギターやウクレレもお手のもので、学校でのブラスバンド活動も盛んです。ところが、いわゆるオーケストラで使用される弦楽器はあまり身近ではありません。ヴァイオリンは知っていても、その音色を知って

いる人は少ないのです。そんなトンガで、私が取り組んでいるのが「弦楽器をトンガの人にとってより身近なものにすること」です。活動の拠点は、首都ヌクアロファにあるトゥポウ高等専門学校(TTI)。大学の教育学部音楽科でヴァイオリンを専攻し、自身も所属していた熊本のアマチュアオーケストラをボランティアで指導してきた経験を生かして、4年前、TTIにできた音楽コースでオーケストラの授業やヴァイオリン専攻の学生の指導をしています。長期間練習してみんなで音楽をつくり上げることが少し苦手な学生が多いのですが、こつこつ練習を積み重ねることで得られる達成感や、音を合わせる楽しさを学んでほしいと思っています。

昨年11月末には、トンガ初のクラシックコンサートを開催しました。演奏のメインはTTIの学生たち。約3か月の練習を経て、オーケストラや声楽、合唱などバラエティ豊かな曲を披露しました。生音での演奏を静かな環境で聴いてもらえるよう聴衆は招待客だけに静寂に包まれ、演奏者も適度な緊張感で臨み、とても好評でした。ちよつと大きですが、トンガ音楽史上に新たな1ページを開けたのではないかと思います。